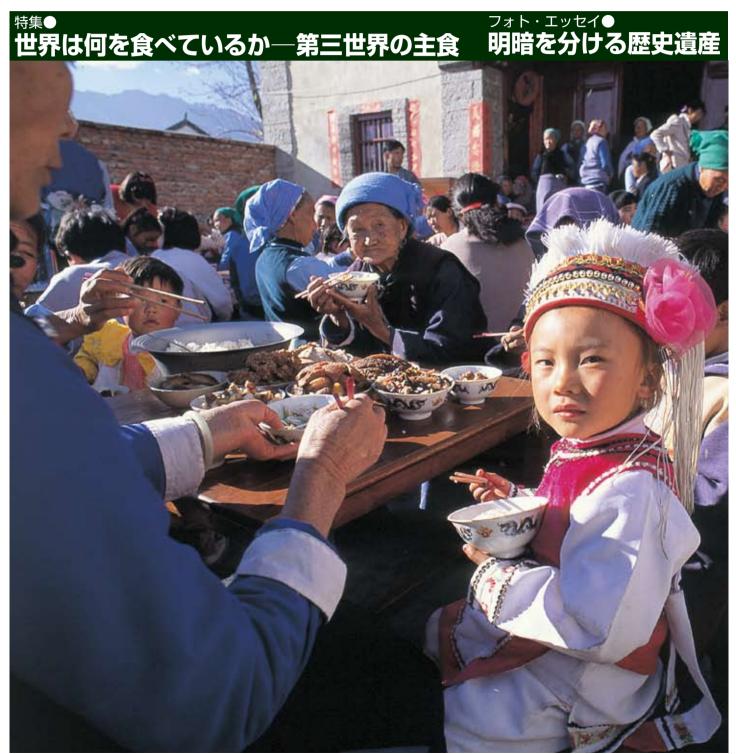
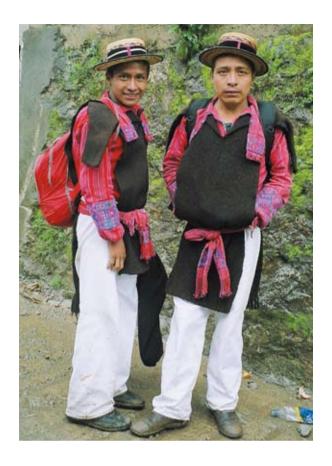
アジ研ワールド・トレンド

発展途上国の明日を展望する分析情報誌

2009

第161号





──グアテマラ、マヤの歴史を織る人びと─ サン・フアン・アティタン

撮影・解説:小林グレイ愛子、タペストリー作家

2200メートルあまりの高地にある村、サン・ファン・アティタンは数少ない男性の民族衣装が残っているところ。父と息子と思えるこの2人は、カピシャイと呼ばれる黒羊の毛織物の巻頭衣を着ている。脇縫いなしで手織りの帯を締め、細身の袖に当たる部分は飾りのように肩に載せるだけである。

襟と袖口、帯には同じ系統の色で織られた縫い取り織りの柄で統一 されている。以前は朱色に近い赤が主流で黄色、みどりなどの柄が 入っていたが、今はピンク、紫、青などの色の上に、細かい柄が入ってい るものが多い。

手織りの白のパンツにリボンを巻いた帽子の男性たちの姿は、女性よりおしゃれで素敵に見える村である。

